［招待講演］

人文学におけるオープンデータの可能性

永崎 研宣†

オープンデータが期待するところは自由に再利用できるデータの広範な提供である。それによって社会に何らかの新しさをもたらしてくれるのではないかという漠然たる期待を関係者の多くは持っているだろう。学術雑誌でのオープンアクセスも基本的には同じような潮流にあると言えるだろう。翻って、人文学においてこれがどのように展開されてきているのかと言えば、再利用可能な古典籍などを紙媒体を通じてうまくマネタイズしつつ編集から出版に至る専門性と質を高めてきたというかつてのサイクルが、デジタル媒体を前にしたときには、未だ十分にうまく対応できているとは言いがたい状況にある。講演者自身はマネタイズからは離れたところで活動してしまっているため、そのような全体性の再構築にまでは関わることができていないが、今回は、そのような地点から提示できるオープンデータの可能性について検討する。特に、大蔵経データベースにおける世界各地のデータベースとの連携を中心として、議論を進めていきたい。

†人文情報学研究所

ⓒ2014 Information Processing Society of Japan